

やま だ

Email: e717yamada-yakifuna@city-niigata.ed.jp

<http://www.yamada-es.city-niigata.ed.jp/>

ふし 節で確かな成長

校長 佐久間 郁子



旬の竹の子を使った献立が、給食に出てくる季節です。

昔から食品としてだけではなく、ざる類、物干しざおなどの実用品をはじめ、建築資材、工芸品等と多様に活用されてきた竹は、強い風や雪の重みにも耐え、空に向かって真っすぐ成長します。この竹の姿は、子どもたちがすくすくと成長する姿によく例えられます。竹は竹の子の段階から、少しずつその成長過程で「節」をつかって伸びていきます。この「節」が成長点となり、その数の分、他の植物の数十倍のスピードで伸びていくのです。例えば、一つの節が10cm 伸びるとすると、二つの節で 20cm も伸びるというわけです。「節」は、成長のもととなっているだけでなく、「節」に加えられた力を吸収したり元に戻したりする役目をもっています。ですから、先に述べたように、どんなに強い風が吹いても、雪が降り積もっても、場合によっては雪の重みで先が地につくくらいになっても耐え忍ぶしなやかさと強さがあります。

学校では、毎日の授業の区切りや学習の区切り、様々な行事が「節」となります。運動会や山田っ子祭りなどの行事では、目標に向かって頑張ったこと、工夫したこと、粘り強く取り組んだこと、うれしかったこと、辛かったこと、そこから生まれる充実感や達成感、次こそはという気持ち、それら一つ一つが子どもたちの成長につながるのではないのでしょうか。20日(土)の運動会も節の一つです。運動会という一つの「節」に向かい、一人一人が体育の授業を主として運動を楽しんだり種目の取り組み方を工夫したり、応援団として振り付けを考えたり、団結力を高めるために応援団同士、または同じチーム(組)の仲間とどのように働き掛けたらよいか試行錯誤したり…、すべての体験が子どもたちを大きく成長させます。これらの体験から得た力が、今後に生かせるものとなることを信じています。